平成 27年度
第5号

耕　人

『耕人塾』
塾長木村民男
平成 27 年 9 月 19 日(土)

「世界に誇れるあいさつとは？」

今年度の『耕人塾』の実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」です。これまで、ゴミ拾いと清掃の大切さについて書いてきましたので、今回は「あいさつ」の大切さについて書きたいと思います。9 月 4 日（金）の河北新報「声の交差点」に載った佐藤つづりさん（12 歳）の記事を紹介します。

> 最近、声に出してあいさつをするのではなく、会釈だけですませる人が多くなっています。声に出してあいさつするのと、会釈だけするのとでは、伝わり方が変わってくるのではないかと思います。なぜなら、顔の表情がちがうからです。確かに会釈をするときも、顔の表情がふだんと変わります。でも、皆さんも鏡の前に立って比べてみてください。声に出してあいさつをする時と、会釈するときの顔では、目、口、ほっぺのゆるみがちがいます。また、声に出すあいさつは、明るさ、速さ、高さを変えれば、いろいろな伝え方ができます。
>
> 「会釈には会釈の良さがあるから、会釈でも十分」という人もいると思います。実は、声を出してあいさつしているときには自然と会釈もしているのです。その両方ができれば、もっともっとよくなると思います。心の中、人格は目には見えませんが、声に出せば、感じてもらえるはずです。

なかなか素敵な文章ですね。つづりさんの文章から学んだことをいくつかあげます。一つ目は、**「会釈と声に出してのあいさつを比較」**しているところです。つづりさんは自分で鏡を見て確認し、確信をもって表情の違いを述べています。私も鏡を見ながらやってみました。会釈の場合は、ほとんど表情は変わりません。しかし、「おはようございます」と声を出すと何となく笑顔になるのが分かりました。つづりさんはそれを**「目、口、ほっぺのゆるみがちがいます」**と表現しています。何度も何度も鏡を見て確かめているつづりさんの様子が目に浮かびます。二つ目は、**「声に出すあいさつは、明るさ、速さ、高さを変えれば、いろいろな伝え方ができます」**といっていることです。とっても深い言葉です。場に応じた、相手に届く、相手を安心させ和ませるあいさつの方法が見事に含まれています。三つめは、**「心の中、人格は目に見えませんが、声に出せば、感じてもらえるはずです」**という文章で締めくくっています。心を開いて相手に迫るというあいさつの意味を見事に表しています。『耕人塾』宿泊研修で「世界に誇れるあいさつとは？」に取り組みました。つづりさんのあいさつに対する考え方を参考に、さらに質の高いあいさつをとはどういうものかを工夫してみましょう。

「弱い者いじめをするのは恥ずかしいことである」

滋賀県大津中 2 年、岩手県矢巾中 2 年、仙台市立中 1 年が自ら命を絶ち、その原因はいじめであると報道されています。数十年前の話になりますが、いじめられている生徒を救うために日夜悩み、生徒たちにも相談し、家庭訪問を繰り返した結果、何とか無事卒業させることができた経験があります。私は学校で絶対許してはならないことは三つだと生徒に話してきました。それは**「弱い者いじめや暴力、器物破損、授業妨害」**です。特に、いじめは人の人格を傷つける卑劣な行為です。弱い者をいじめるということは、卑怯なことです。恥ずかしいことです。そのような行為を許さない学校や社会をつくっていく必要があります。そのためには**「優しさ・思いやり・勇気」**が必要です。塾生はどう行動しますか？